



アクセシビリティ推進委員会

# 年報

# 2020

障がい学生支援の実施状況について

札幌学院大学

# 巻頭言

今年2月、北海道内の12大学で構成する北海道障害学生修学支援ネットワーク<sup>注1</sup>で「コロナ禍での障害学生支援に関する情報交換会」が開催されました。そのプログラムのひとつ、「コロナ禍での障害学生支援を振り返って」と題する講演で京都大学の村田淳氏<sup>注2</sup>が大学全体の混乱と障害学生支援の矮小化という問題を提起していました。コロナ禍により誰もが混乱するなかで、障害学生支援が「みんなたいへんだから」という言葉のなかに置いていかれたり後回しにされたりするのではないかと、という趣旨の指摘です。

振り返れば、昨年5月すべての授業を遠隔で開始し、危機管理レベルの緩和にともない9月からは遠隔と対面のハイブリッド型の授業になり、そして11月に再度原則としてすべての授業が遠隔になりました。教員は遠隔授業の準備、学生の通信環境や端末の確認と対応、学生の顔や人となりがつかめないなかで行う授業のやりにくさ、そして学生も毎日パソコンとにらめっこをしながら膨大な課題の数をこなさなければならなかったり友達との関係も作れなかったり等々、確かに障害のある学生だけではなく教職員も他の学生もみんながそれぞれに苦しい状況にありました。みんながたいへんな状況は、障害のある学生だけに關心を向けられなくなり、彼らのニーズや困り事が埋没してしまったり、あるいは障害のある学生自身もたいへんなのは自分だけじゃないと遠慮してしまう、そうした障害学生支援の基本に関わる危惧を村田氏は指摘したのだと思います。

一方で、本学がこの1年で取り組んできたことは、例えば遠隔による情報保障、講義動画の字幕付け、遠隔授業で予想される履修上の困難への対応に関する情報発信などがありました。特に、遠隔にともなう履修上の困難に対し『遠隔授業に伴い予想される学生の履修困難状況および対処方法につきまして』という文書をサポートセンターがいち早く発信したことは、誰も取りこぼさない対応として特筆できる取り組みだったと思います。いずれも障害によって学びの機会が制約されないように行ってきたことで、少し俯瞰して考えてみると字幕付けにしても履修上の困難に対する対応にしても、コロナ禍においては障害のある学生にとってだけではなく誰にとっても助けになっていたはずで、その意味では、みんながたいへんな状況で行った障害学生支援は、結果としてみんなの困り感に対応していたいわばユニバーサルな配慮と言えるかもしれません。

あたりまえに続くと思っていた日常を一変させたコロナは、大学全体にも障害学生支援にも大きな影響を与えました。障害のあるなしにかかわらずみんながたいへんな状況は、障害ゆえのニーズもわかりにくくします。課題の提出期限の延長、生活リズムの乱れ、スケジュール管理、ビデオのオフなどは、必ずしも障害だけを理由にしたニーズではありません。その点では、みんながたいへんな状況で行ったことが結果としてみんなの困り感に対応していたとしても、それが障害学生支援における「合理的配慮」と言えるかはまた別の議論です。当面コロナ禍における障害学生支援が続くと思いますが、ユニバーサルな視点も大切にしつつ、かつ合理的配慮の意味を今一度とらえ直しながら障害学生支援が矮小化されることなくすすめることが肝要と考えています。

2021年3月31日

アクセシビリティ推進委員会委員長

松川 敏道

注1 北海道内の大学間で2017年度に立ち上げた障害学生支援に関する情報交換と連携を目的としたネットワーク。情報交換と勉強会を年2回程度開催するとともに、メーリングリストを活用した連携体制を構築している。

注2 京都大学学生総合支援センター・准教授／障害学生支援ルームチーフコーディネーター

# 目次

- I アクセシビリティ推進委員会の概要……………p1
  - 1. アクセシビリティ推進委員
  - 2-1. アクセシビリティ・学生スタッフ
  - 2-2. アクセシビリティ・学生スタッフ 支援別延べ人数
  - 3. 参考資料 障がい学生数
- II 合理的配慮の実施状況……………p2
  - 1. 情報保障（ノートテイク・パソコンテイク・UDトーク・ロジャー）
    - (1)通常の授業における情報保障
    - (2)通常の授業以外における情報保障
  - 2. ポイントテイク
  - 3. 通学・移動支援
  - 4. 授業配慮の依頼状況
- III アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み ……………p3
  - 1. トスプログラム
  - 2. 就職支援
  - 3. 静かな学習空間の利用状況
  - 4. 学生面談の実施状況
  - 5. 支援者募集と説明会の実施状況
  - 6. 冬道通学介助支援 車いすキャストースキーの寄贈
- IV アクセシビリティ・学生スタッフの活動状況……………p5
  - 1. 第16回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム
- V アクセシビリティ推進委員の活動状況……………p6
  - 1. 関係機関の委員委嘱
    - (1) 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）
    - (2) 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）
  - 2. 北海道障害学生修学支援ネットワーク
  - 3. 発達障がいのある学生への教育支援事業
  - 4. 研修会・会議等の参加

# I アクセシビリティ推進委員会の概要

## 1. アクセシビリティ推進委員

委員長：松川敏道（人文学部人間科学科准教授） 委員：藤野友紀（人文学部人間科学科准教授）・田中 敦士（人文学部人間科学科教授）・齊藤美香（心理学部臨床心理学科教授）・皆川雅章（法学部法律学科教授）・佐野友泰（副学長/心理学部臨床心理学科教授）・ト部洋子（学生相談室カウンセラー）・辻由依（サポートセンターコーディネーター・学生相談室カウンセラー）・廣嶋進（教育支援課長）・佐藤博昭（学生支援課長）

## 2-1. アクセシビリティ・学生スタッフ

学科	経営	会計ファイナンス	こども発達	人間科学	英語英米文学	臨床心理	法律	経済	大学院	計
1年生	1	0	1	1	0	1	0	0	0	4
2年生	1	0	4	5	1	14	3	3	0	31
3年生	1	0	1	3	4	9	1	1	0	20
4年生	1	0	7	2	3	4	2	2	1	22
計	4	0	13	11	8	28	6	6	1	77

(人)

※2021年3月31日現在

## 2-2. アクセシビリティ・学生スタッフ支援別延べ人数

	パソコンテイク (含む遠隔/文字起こし)	ノートテイク	ポイントテイク	通学介助	計
1年生	0 (0/0)	0	2	2	4
2年生	20 (含む遠隔6/文字起こし15)	9	8	16	53
3年生	12 (含む遠隔2/文字起こし5)	6	6	5	29
4年生	10 (含む遠隔3/文字起こし5)	6	14	11	41
計	42 (含む遠隔11/文字起こし22)	21	30	34	127

(人)

※2021年3月31日現在

## 3. 参考資料 障がい学生数

	聴覚	視覚	肢体不自由	病弱・虚弱	発達障害	精神障害	重複	その他	
診断書のある学生	3	0	5	3	14	13	1	1	40
診断書のない学生	0	0	0	0	12	6	0	15	33
計	3	0	5	3	26	19	1	16	73

(人)

※数値は診断書の有無にかかわらず授業配慮の依頼など何らかの支援を行っている学生数。2021年3月31日現在

## Ⅱ 合理的配慮の実施状況



### 1. 情報保障（ノートテイク・パソコンテイク・遠隔テイク・文字起こし・UDトーク）

#### （1）通常の授業における情報保障

前 期	1年生	2年生	3年生	4年生	計	
情報保障を利用した学生数（人）	0	0	2	0	2	
情報保障を行った科目数 <sup>※1</sup>	0	0	12	0	12	
※2	ノートテイク	0	0	0	0	0
	パソコンテイク	0	0	0	0	0
	遠隔テイク	0	0	3	0	3
	文字起こし	0	0	9	0	9
	UDトーク	0	0	0	0	0

※2021年3月31日現在

後 期	1年生	2年生	3年生	4年生	計	
情報保障を利用した学生数（人）	0	0	2	0	2	
情報保障を行った科目数 <sup>※1</sup>	0	0	22	0	22	
※2	ノートテイク	0	0	0	0	0
	パソコンテイク	0	0	10	0	10
	遠隔テイク	0	0	3	0	3
	文字起こし	0	0	9	0	9
	UDトーク	0	0	0	1	1

※2021年3月31日現在

※1. 1科目の時間は90分、授業数は半期で15回

※2. ノートテイク：手書きによる文字通訳、パソコンテイク：パソコンを用いた文字通訳、  
遠隔テイク：T-TAC Caption接続による文字通訳、  
文字起こし：音声付動画への字幕作成・修正、YouTube等を使用して文字通訳、  
UDトーク：音声認識による文字通訳

※3. 情報保障の支援では、テイクの場合1時間1,000円の謝金が学生スタッフに支払われます。文字起こし作業におけるテイク時間としての換算は、（動画時間数）×4倍で時間計算を行いました。

※4. 手話通訳（外部委託）による情報保障は、後期1科目のみ実施。また、今年度はロジャーを使用している情報保障は行いませんでした。

#### （2）通常の授業以外に行った情報保障

- ・各種ガイダンス（SPIテストセンター対策模試（12月／遠隔）・キャリア支援ガイダンス（1月／遠隔））
- ・人文学部人間科学科卒論報告会（2月／遠隔）
- ・アクセ学生スタッフミーティング（12月／遠隔）

## 2. ポイントテイク（筆記代行）

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
ポイントテイクを利用した学生数（人）	1	0	0	1	2
ポイントテイクを行った科目数 <sup>※1</sup> 【前期】	0	0	0	0	0
ポイントテイクを行った科目数 <sup>※1</sup> 【後期】	2	0	0	1	3

※1. 1科目の時間は90分、授業数は半期で15回

※ポイントテイクでは、1時間880円の謝金が学生スタッフに支払われます。

## 3. 通学・移動支援

※学外からの通学介助では、1回500円（学内の移動介助は1回300円）の謝金が学生スタッフに支払われます。  
今年度は冬期に対面授業がなく、冬道通学介助を行う機会はありませんでした。

## 4. 授業配慮の依頼状況

[前期25名] 聴覚障がい学生3名、肢体不自由学生5名、発達障がい・精神障がい学生12名、その他5名

[後期24名] 聴覚障がい学生2名、肢体不自由学生5名、発達障がい・精神障がい学生12名、その他5名

# Ⅲ アクセシビリティの向上と学生支援の取り組み

## 1. トスプログラム

【Tossプログラム（Transition Ogaru from School life to Social life Program）】

昨年度実施した「社会移行支援プログラム」を改変継続の予定であったところ、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるの機関支援を受け、おがるが開発した大学生への就労前支援プログラムであるTossプログラムを実施しました。本プログラムは、ライフスキル、ソフトスキルに焦点を当てた発達障がい（傾向・診断有）のある学生を対象としたプログラムです。4つのキースキルの習得を目的とし、ゴールプランを作成し、グループ学習でスキルを学び、個別学習でスキルを個別化し、インターンシップでスキルを実際に練習するという循環型のプログラムです。通常は対面で実施されますが、コロナ禍の影響で、開始時期が遅れ、かつ遠隔での実施となりました。更に予定していた内容を大幅に改変して、9月から1月まで、参加者4名、概ね週1回、計12回のオンライングループと数回のインターンシップを実施しました。次年度も継続予定です。

## 2. 就職支援

2020年1月27日 / 障がいのある学生のためのキャリアガイダンス（キャリア支援課主催）  
※Zoom 参加学生10名

## 3. 静かな学習空間の利用状況

前期利用延べ人数 0名 ※対面授業がなかったため利用者なし

後期利用延べ人数 4名 ※対面授業期間（後期9月中旬～11月中旬）での利用者のべ人数

## 4. 学生面談の実施状況

2020年度入学生 入学前面談 7名実施

※在学生については、前期・後期終了後に、支援の内容やニーズを確認することを目的とした、振り返り面談を  
対面、電話等で実施。

## 5. 支援者募集と説明会の実施状況

- 1) 新学期学年別ガイダンスでのチラシ配布・支援者呼びかけ  
新入生のみ実施 2020年4月3日（新入生） アクセシビリティ推進委員長
- 2) 障がい学生支援者説明会  
10月中旬 オンデマンドで実施
- 3) パソコンテイク講習会  
※11月24日から、対面で実施予定だったが実施できず。
- 4) ノートテイク講習会  
※11月27日から、対面で実施予定だったが実施できず。
- 5) ポイントテイク練習会  
12月上旬 オンデマンドで実施（3名の学生が受講）  
12月17日 オンラインミーティング（Zoom）（3名の学生がスタッフ登録）
- 6) UDトーク講習会  
※実施できず
- 7) 通学介助講習会  
1月中旬 オンデマンドで実施  
2月2日 オンラインミーティング（Zoom）（2名の学生がスタッフ登録）

## 6. 冬道通学介助支援 車いすキャストースキーの寄贈

昨年度入学した心理学部の学生の冬道通学介助が大変困難であった為、2年前に車いすキャストースキーを寄贈いただいた植田様に、再度、この学生の車いすに合わせた車いすキャストースキーの制作をお願いした。

完成した車いすキャストースキーは、2年前の車いすキャストースキーに比べ、デザイン、機能も含めバージョンアップしたものとなり、完成の際はご夫婦で来学いただいた。

残念ながら、この車いすキャストースキーは、コロナ禍の影響で11月中旬以降の授業が遠隔授業で行われたことに伴い、冬道通学介助が実施されなかったため活躍することはなかったが、来年度以降の冬道通学介助支援では大活躍間違いなしと思われる。



バージョンアップした車いすキャストースキー

# IV アクセシビリティ・学生スタッフの活動状況

## 1. 第16回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

日時：2020年11月4日～12月15日 ※オンライン特別企画

主催：日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）／国立大学法人 筑波技術大学

【聴覚障害学生実践事例コンテスト特別編 聴覚障害学生支援の思いを伝えるコンテストに応募】

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)・筑波技術大学が主催する「第16回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」のその他の企画で、「聴覚障害学生実践事例コンテスト特別編 聴覚障害学生支援の思いを伝えるコンテスト」があり、アクセシビリティ・学生スタッフ 平賀一馬くん（心理学部臨床心理学科 2年）が、川柳部門に応募しました。

### 応募作品 「タイピング うつ速さより 正確さ」

残念ながら入選には至りませんでした。平賀くんが日頃タイピングをする上で心がけている心境がこもった一句だと思えます。

このシンポジウムは、全国の大学における聴覚障害学生への支援実践に関する情報を交換するとともに、PEPNet-Japanの活動成果をより多くの大学・機関に対して発信することで、今後の高等教育機関における聴覚障害学生支援体制発展に寄与することを目的として開催されております。



# Vアクセシビリティ推進委員の活動状況

## 1. 関係機関の委員委嘱

(1) 日本学生支援機構（JASSO）障害学生修学支援ネットワーク事業運営委員

松川敏道（任期：2020年4月1日～2021年3月31日）

(2) 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）運営委員

藤野 友紀（任期：2020年4月1日～2021年3月31日）

## 2. 北海道障害学生修学支援ネットワーク

● 第6回北海道障害学生修学支援ネットワーク情報交換会（※オンラインZoom）

／アクセシビリティ推進委員 9名参加

## 3. 発達障がいのある学生への教育支援事業（学長裁量経費事業）

【FD/SD研究会の開催】

学長裁量プロジェクト「発達障がいのある学生への教育支援事業（FD/SD研究会の開催）」に応募、採択された。

本学は障害学生修学支援ネットワーク拠点校として、障がいのある学生に対する修学支援でノウハウを蓄積し、先進的な役割を果たしている。大学認証評価でも高く評価されている。しかし、発達障がいやそのグレーゾーンの学生に対しては、多様なニーズがあり、就職を含めて課題が山積している。障害者手帳や診断名がないままに支援や配慮を必要とする学生も多く、教職員が日々試行錯誤しながら対応している状況にある。

昨年度の学長裁量事業「発達障がいのある学生への教育支援事業」にて、発達障がいのある学生に対する修学・就職支援で道内外の先進的な大学とその連携機関、事業所等を訪問した。その報告会としてFD/SD研究会を令和2年3月9日に開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。そのためFD/SD研究会を再度企画し、2020年9月2日にSGUホールにて開催した。

「令和2年度発達障がいのある学生への教育支援FD/SD研究会，ブランドプロミスの方向性に我々是对応できるのか－個性的な学生たちを受け入れ・教育し・送り出すために必要なことを考える－」として、学内教職員限定参加で行った。参加者は31名で、内訳は外部講師4名、アクセシビリティ推進委員（教員6・職員6）、教員12名、職員3名であった。

第1部「先進的・大学・機関から学ぶ」では、昨年度の視察（訪問調査）報告を行った。第2部「本学における事例から支援体制・方法を検証する」では、発達障がいのある学生への就職支援事例検討会とし、本学学生の事例報告に続いて、学部講師4名より助言を頂いた。第3部「本学はこれから何をすべきか自由に議論する」では、全体ディスカッションとして「本学の発達障がいのある学生のために今すべきこと」をテーマに討議した。

FD/SD研究会の第1部および第3部については、動画を学内TEAMSにアップし、希望する教職員が年度内は閲覧できるようにした。第2部については、個人情報が含まれるため公開しなかった。

本事業の成果公開の一環として、訪問調査の結果、及び「令和2年度発達障がいのある学生への教育支援FD/SD研究会」の結果を、札幌学院大学総合研究所紀要第8巻(2021)に投稿した。特集「発達障害のある学生への修学・就職支援」として、8論文が一連報告として掲載される予定である。

プロジェクトチーム・コメンター：田中 敦士（プロジェクトリーダー、アクセシビリティ推進委員）、松川 敏道（アクセシビリティ推進委員長）、藤野 友紀（アクセシビリティ推進委員）、斉藤 美香（アクセシビリティ推進委員）、卜部 洋子（アクセシビリティ推進委員）、山本 彩（心理学部臨床心理学科教授）、栃真賀 透（人文学部人間科学科教授）、

## 4. 研修会・会議等の参加

### 【研修会・会議出席等】

<藤野 友紀（教員）>

#### ●北海道大学FD/SD研修

「発達障害のある学生の理解と対応～コロナ禍における修学支援～」(オンラインZoom)

・2020年9月4日（金）/藤野友紀（教員）

#### ●PEPNet-Japan運営委員会（オンラインZoom）/ 藤野友紀（教員）

・2020年5月22日（金）第1回運営委員会（第41回運営委員会）

・2020年9月28日（月）第2回運営委員会（第42回運営委員会）

・2020年2月16日（火）第3回運営委員会（第43回運営委員会）

#### ●PEPNet-Japanシンポジウム ※オンライン特別企画

・2020年11月4日（水）～12月15日（火）（オンライン配信）

企画1「聴覚障害学生を理解する-教育背景と心理から-」/藤野友紀（教員）※司会

・2020年11月27日（金）（リアルタイム配信）

・2020年11月4日（水）～12月15日（火）（アーカイブ配信）

企画4「オンライン授業は聴覚障害学生支援に何をもたらしたか」/藤野友紀（教員）※講師

#### ●PEPNet-Japan 2020年度相談対応事業

第2回勉強会「聴覚情報処理障害の学生への理解と支援」（オンラインZoom）

・2021年3月3日（水）/藤野友紀（教員）・斉藤美香（教員）

<斉藤 美香（教員）>

・2020年7月9日 筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 教育関係共同利用拠点事業  
オンラインFD/SD研修会

・2020年7月29日 令和2年度第4回筑波大学FD/SD研修会「遠隔授業におけるアクセシビリティを考える」

・2020年8月25日～ AHEAD JAPAN オンライン大会2020

- ・2020年9月28日 筑波大学教育関係共同利用拠点FD/SD研修会「発達・精神障害のある学生とどう向き合うか」
- ・2020年9月29日 独立行政法人日本学生支援機構 令和2年度「障害学生支援専門テーマ別セミナー」
- ・2020年11月5日 第16回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム
- ・2020年1月18日 北海道大学教職員と学生をつなぐお役立ちセミナー精神障害のある学生の理解と対応
- ・2020年2月24日 2020年度 PEPNet-Japan リソース活用事業北海道障害学生修学支援ネットワーク「コロナ禍での障害学生支援に関する情報交換会」

<松川 敏道（教員）>

- 令和2年度日本学生支援機構障害学生委員会（オンラインZoom）

<講師派遣>

- ・2020年10月24日 2020年度発達障がいの傾向がある大学生の就労支援シンポジウム（札幌市自閉症・発達障がい支援センター／おがる主催）

<会議>

- ・2020年9月30日 江別四大学 発達障害学生就労支援についての実務者会議（斉藤・辻）

<辻 由依（サポートセンターコーディネータ・学生相談室カウンセラー）>

- ・2020年11月16・17日／障害学生支援実務者研修会：後期（オンラインZoom）



札幌学院大学アクセシビリティ推進委員会

発行日：2021年3月31日

住所：〒069-8555 北海道江別市文京台11番地

メールアドレス：[shien@ims.sgu.ac.jp](mailto:shien@ims.sgu.ac.jp)

電話番号：011-375-8567（直通）

ファックス番号：011-386-8190

（担当事務局：学生支援課学生支援係）